

2. 2019年度日本陸上競技連盟競技規則の修正

1. 国際陸連による修正

	ポイント	関連条文
1	リレー競技で認められる交代人数 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国際陸連「競技会にエントリーしている者なら、最大4名まで変更可」 ➢ 国内ルールには適用せず ✓ 現在の国内ルール（事前エントリーは6名まで、他種目にエントリーしている選手であれば2名まで交代可等）は〔国内〕として別定義 	§170-10 §170-10〔国内〕
2	競歩 ピットレーン・ルールの明確化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 3枚目のレッドカードが終了間際に出され、ピットレーンに入れることができなかった場合、当該選手のフィニッシュタイムにピットレーンにとどまるべき定められた時間を加算して記録修正 ➢ 国内ルールにも適用 	§230-7 (c)
3	マウンテンレース・トレイルレース <ul style="list-style-type: none"> ➢ 現 §251 と §252 を併合、新ルールに変更 ➢ 国内には直接関係なし 	§251

2. 日本陸連による修正・明確化

	ポイント	関連条文
1	競技中に選手が重篤な状態に陥った場合の対応。【安全対策】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ Track & Field、道路競技共通 ➢ 審判長、医師（医務員は不可）による競技中止命令 ➢ 審判員等による健康状態確認のための声掛け、一時的介護は助力とはみなさない ➢ 競技中止命令を受けたら、競技者は命令に従わなければならない ➢ 特に道路競技・駅伝では事前に緊急時対応策を整備し、関係者への周知徹底を図る 	§113 〔国内〕 §125-7 〔国内〕 §144-1 〔国内〕 §240-7 〔国内〕 駅伝競走規準
2	レーンの幅・助走路の幅の扱い <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程」の改正 ➢ 旧規格（1m250）が公認競技場として認められる期限の明確化 ✓ 2021年4月以降に公認満了する競技場より1m220完全適用 	§160-4 〔国内〕 §183-6 〔国内〕 §184-1 〔国内〕 §186-5 〔国内〕
3	円盤投・ハンマー投 囲いの明確化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国際の数値を「主」として、国内の数値を「従」として、〔国際〕〔国内〕入替 ➢ 囲い図の見直し ✓ 円盤投専用囲い、ハンマー投げ専用囲い図【削除】 （国内競技は全て「ハンマー投・円盤投兼用囲い」のため） ✓ ハンマー投・円盤投兼用囲い図【削除】 （安全確保のための可動パネル設置位置見直しのため → ハンドブック） 	§190-3 §190-3 〔国内〕 §192-3 §192-3 〔国内〕

	ポイント	関連条文
4	道路競技での推奨規則 <ul style="list-style-type: none"> ➤ IAAF ロードレースラベル大会として行われる競技会は、IAAF Label Road Races Regulations が適用されることを明示 ➤ 同 Regulation 記載項目の内、以下の項目を推奨項目として明記 <ul style="list-style-type: none"> ✓ スタートの並び順は持ちタイム順に 【安全対策】 ✓ 順位を厳密に判定する必要がある大会では、写真判定装置等の機器の設置 	§240 【注釈】 §240-6 【国内】 §240-11 【国内】
5	日本記録として認められる種目の追加 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 男女混合 4×400mR (写真判定のみ) 【世界記録は 2018 年から対象】	§266-10
6	競技規則に定められた「長さの単位」の表記統一 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 〔国内〕§148-4 に合わせた計測単位表記 (原則) <ul style="list-style-type: none"> ✓ 例 m 止まり 88m m 以上で端数あり 2m135 m 未満 10mm ➤ 種目名等の表記はこれまで通り <ul style="list-style-type: none"> ✓ 例 成年女子 400mH (0.762m) 少年男子共通 110mH (0.991m/9.14m) 	全般
7	その他 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 翻訳不足の修正、わかりやすい表現への修正 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 医事代表 (国際適用) に関する〔注意〕の追加 ✓ 審判職種名変更 (トランスポンダー主任 → トランスポンダー係) ✓ 号砲前にスタートをやり直す際のスターター指示語 (日本語で可) ✓ 20m をテイクオーバーゾーンとするリレー競技規則の明示 ➤ 校正レベル (誤字・脱字等) の修正 	§113 §120、§128-4 §162-2〔国内〕 §170-3 全般

以上

2019年度競技規則の緊急改定について

以下の2件の競技規則改定について提案する。適用は2019年4月1日以降とする。

(1) IAAF提案の即時発効競技規則修正について

3月10日～11日ドーハにて行われたIAAFカウンスルミーティングにおいて技術委員会提案の競技規則修正案が可決され、特に緊急性の高い数件が即時発効となった。競技運営委員会において検討した結果、2020年東京オリンピック参加者の半数はIAAFのランキングシステムにより決定することが提示されたこと、近年日本人競技者が世界大会へ参加する機会が増大していること、そしてランキングシステムを見据えて国内でもアジアパーミット競技会が増加したこと等から、国際規則に基づく競技会運営は必須であると考えた。しかしながら国内、国外とも大きな影響を及ぼさないであろう規則については混乱を避けるためにも今回提案せず次年度送りとした。

① 第180条 17 遅れ フィールド競技の試技に許される時間

2018年度に30秒に短縮された時間を2017年度以前のものに戻す。30秒→1分

② 第230条 7 「ピットレーン」→「ペナルティゾーン」

(2) 300mハードルの導入に伴う競技規則の改定

日本陸連競技者育成指針の制定およびそれに基づく国体種目・U18種目の変更に伴ってU18および国体少年種目において300mハードルを正規の種目として位置づけるため、競技規則を下記のように改定するものである。

第168条 ハードル競走

第168条 ハードル競走 1項の〔国内〕2に次の文章を追加

1. 〔国内〕2 300mハードルは、つぎの規定によって実施する。
 スタート位置：300mのスタートラインに同じ
 スタート～第1ハードル：45m
 ハードル間：35m
 第8ハードル～フィニッシュライン：10m

第168条 ハードル競走 3項に距離とハードルの高さ追加

3. 寸法 — ハードルの標準の高さは、つぎの通りである。

男子	距離	標準の高さ	女子	距離	標準の高さ
一般	110m	1m067	一般	100m	838mm
	400m	914mm		400m	762mm
U20	110m	991mm	U20	100m	838mm
	300m	914mm		300m	762mm
	400m	914mm		400m	762mm
U18	110m	914mm	U18	100m	762mm
	300m	838mm		300m	762mm
	400m	838mm		400m	762mm

〔国内〕 第266条 日本記録と公認記録のU20・U18の種目に追加